東京四極だより

【書：篠田直雄 東京四極会初代理事長・昭和3年卒 高商4回】

http://www.tokyoshiwasukai.jp/

発行責任者　奥川隆生
編集責任者　奥川隆生
発行所　東京四極会
〒210-0812
川崎市川崎区東門前3丁目11-14
丸伊ビル1階 カワカ産業株式会社内
E-mail：info@tokyoshiwasukai.jp

平成三十年度
東京四極会 定時総会開催！

姫野体制から奥川新体制へ
全世代から支持される同窓会活動に向けて始動

・本部支部のあり方、
100周年記念事業の検討が進む
・記念事業に向けて募金目標1億3千万円
・東京四極会の財政基盤強化が喫緊の課題

6月2日（土）渋谷区の新日鐵代々木倶楽部において理事会および本年度の定時総会を開催した。出席者はご来賓5名、会員45名、計50名となった。総会に先立ち11時30分から理事会を開催した。

議事では事務局が前年度決算案、新年度予算案と新年度役員人事案の提案を行い、総会への議題にあげることを確認した。理事会議事では今年度予算から始まった収入中の「寄付金」については、十分にその趣旨について諸活動の中で説明を尽くしていくようにとの意見を受けた。

引き続く総会では、姫野理事長が欠席のため佐藤事務局長（第45回）が議長となり、「本日は予算決算案を審議とともに、2009年以来9年間にわたって、会費収入減の対策や仕事の効率化など諸課題と取り組んできた姫野体制から新体制への確認をいただく総会となる」と挨拶を行った。

審議では以下の議案が承認された。

❶田中監事（第48回）の監査報告をはさんで平成29年度決算案・平成30年度予算案が承認された。
❷姫野易之理事長（第44回）の退任に伴い、奥川隆生氏（第50回）が信任され、奥川新理事長が役員体制（別掲）を発表して総会参加者の確認を得た。

【東京四極会の新体制】
理事長（奥川隆生）、副理事長（大坪孝幸）、事務局長（鶴田幾雄）、事務局次長（下村晃、米井晃彦）、理事（石川公博、西坂憲郁、金馬弘明、梅木俊宏、田尻清司、小林伸彦、西川広子、千葉史）、相談役（高橋信行、西依章郎）、監事（田中典明、松岡幸秀）

奥川新理事長「これまで9年間東京四極会の運営に尽力された姫野執行体制を引き継ぐ奥川です。私の仕事は2つ。一つは東京四極会の基盤強化を急ぐこと。そのために新体制の中核は50歳台の現役社会人の方々に役員をお願いした。また、最近の卒業生の半数が女性会員になっていることを踏まえダイバーシティの観点から役員に千葉史さんを迎えた。こういう体制のもとで若手中堅会員がより多く参加することを本質から考え直してみたい。同時にこれまで東京四極会を支えてくださったシニア層の皆さんにも諸活動に従前通り東京四極会の活動へのご参加をお願いする。もう一つの仕事は、きちんと東京四極会の基盤を作り上げて次世代の執行部に引き継ぐことだ。役員構成では前年度は平均年齢66歳、現役比率54％、新年度ではそれぞれ62歳、75％となる。全世代に支持される同窓会活動という理想に近づけていく上で、もう一段若い執行体制につなぐ意義は大きい。コアメンバーが現役社会人ということから活動の持ち方などに変更が起きることもあろうが、引き続き皆様のご理解とご支援をお願いする」

以上で総会議案をすべて終了し、来賓挨拶移った。まず、大分からの来賓、石川四極会会長が、4年後の2022年に経済学部創立100周年を祝賀する重要な意味合い、対応の考え方と東京四極会への支持の要請があった。続けて、同じく来賓の大崎経済学部長から石川会長の話を受けて、100周年記念行事に対する学部の一体となった体制や四極会本部に設置された女性部会でかつて東京四極会の会員であった渡邊博子教授の活躍について話題の提供があった。

また、懇談中には野々下100周年記念事業実行委員長からは100周年記念事業について、四極会活動の組織改革とともに行っている記念事業に向けた準備経過や事業遂行のための基金の目標額が1億円であることなどの披瀝があった。

※石川四極会会長、大崎経済学部長、野々下100周年記念事業実行委員長の挨拶要旨はHPに掲載します。

乾杯の音頭は高橋副理事長（第44回）が担当し懇談会に移行した。しばし懇談のあと、恒例の校歌、逍遥歌を全員で斉唱、西依事務局次長（第46回）の

今後の予定

◆たまには歩こう会
年数回を予定
◆東京四極囲碁会
年数回を予定
◆春の懇親ゴルフ
4月大宮ゴルフコース他
◆秋の懇親ゴルフ
9月習志野カントリークラブ 他
◆2019年新年会
来年2月2日（土）
新日鐵代々木倶楽部
◆2019年理事会
・総会予定
来年6月1日（土）
新日鐵代々木倶楽部
◆2019若手会員の集い
来年8月5日（月）
場所未定

確定日程など確認の問い合せは、東京四極会ホームページ問い合せ欄、もしくはハガキで事務所までお願いします。

http://www.tokyoshiwasukai.jp

ハガキ（事務所宛）　〒210-0812 川崎市川崎区東門前3-11-14
丸伊ビル1階 カワカ産業㈱内 東京四極会

中締め挨拶で懇談会を終了した。

■ご来賓

石川四極会会長（第40回）、四極会野々下理事（第39回、百周年記念事業実行委員長）、下田副学長、大崎経済学部長、国士舘大学田中教授、柴原佳史・衛藤参議院議員秘書

■参加会員（敬称略）

大神直人（第26回）、後藤浩（第33回）、用正靖彦（第36回）、一万田道敏（第38回）、小迫邦彦（第39回）、佐藤泰久（同）、大山博康（第40回）、友永英一（同）、武藤孝雄（同）、葛城征志（第41回）、松浦靖弘（同）、栗林保幸（第44回）、高橋信行（同）、田川俊夫（同）、竹上英文（同）、溝辺憲治（同）、佐藤勝峰（第45回）、西依章郎（第46回）、遠藤孝行（第47回）、松浦隆志（同）、田中典明（第48回）、山下政晴（同）、下村晃（第49回）、中邑敬一（同）、伊賀勝秀（第50回）、奥川隆生（同）、鶴田幾雄（同）、石川公博（第53回）、後藤昌幸（同）、米井晃彦（第54回）、大坪孝幸（第55回）、西坂憲郁（第56回）、金馬弘明（第57回）、田尻清司（第59回）、小林伸彦（第60回）、内田孝一（第61回）、小幡靖憲（第62回）、千葉史（第68回・平成5年）、衛藤寛（第69回・平成6年）、坂本浩一（教育学部・平成7年）、菊川敬規（第75回・平成12年）、横山祐真（第86回、平成23年）、宮本晃成（第92回・平成29年）

理事長からのメッセージ

こんにちは！本年6月2日の総会で2009年度から9年間東京四極会を牽引していただいた姫野・前理事長を引継ぎ理事長に就任した奥川です。姫野さんのこれまでのご努力に心から感謝を申し上げます。私も姫野体制の中で広報を担当しまして、この間に同窓会活動の重要性を認識しながら、その運営の難しさについてもいろいろ考える機会がありました。現在、東京四極会は毎年剰余金を減らしながらの運営が続く財政課題に直面していますが、その底流には、全世代に支援された卒業生の集まりになっておらず同窓会活動本来の姿としての発信力と魅力が落ちていることにあると考えています。

もう40数年前になりましたが、私が就職活動で東京にでてきたとき、迎えてくれた母校の社会人の先輩たちが東京駅前で歓迎会を開いてくれました。それは社会にでていこうとする青年にとっては何とも言えない暖かい激励と誘導のひと時でした。社会にでて一人前の仕事人になろうと頑張っていくことは大事なことです。その中で自分を見てくれている先輩がいると安心して大事な時期を過ごすことができます。同世代のそういう先輩たちと会社の枠を超えた意見交換ができる、また逆にシニア層にとっても若手や中堅の会員が考えていることにも耳を傾け理解するといった場を東京四極会が提供できればと願っています。シニアの皆さんには引き続き、東京四極会の運営にご協力をいただきますようお願いいたします。

新しい東京四極会を実現するために、これから1年をかけて組織と活動の見直しを行いながら、同窓会組織構成の是正、すなわち若手、中堅会員の拡充に向けた努力を開始していきます。新体制の役員には現役組への就任と若手中堅層の拡充についての知恵だしをお願いしました。新体制は業務を抱えるものが多数でシニアの皆さんとは異なる状況ではありますが、むしろそこからユニークな発想がでてくることを期待しています。

母校は大きな社会の変化の中で、4年後の2022年に100周年を迎えます。そのときまでに東京四極会がしっかりした運営をして地域における相互の交流や親睦のネットワーク機能を従来以上に果たせるようにしたいと考えています。皆さんのご支援ご助言をお願いします。

来賓ご挨拶

石川四極会会長「新体制が成立されたことにお慶び申し上げる。姫野・前理事長には長い間お世話になった。最近も100周年記念事業の準備への道筋をつけていただいた。厚くお礼を申し上げる。東京四極会の新体制では女性幹部が誕生したが大いにご活躍をいただきたい。本部でも女性部会を立ち上げたところだ。2022年に100周年を迎える意義は、次の100周年をにらんで様々な手を打つことだと思う。記念式典は一過性のものではなく、次の世代に何を遺産として残すかを大事に考えていく。足元の活動にも大きな変革を考えているが、一つの例が会員の把握や広報のあり方についてである。今後は名簿の発行をやめてパソコンを使った即時対応で管理する。四極会報も電子版での発行に動いていく。このようにコンピュータ化することで、会員の皆さんがどこに移動してもアクセスできるようになる。今後とも四極会活動にご支援をよろしくお願いする」

大崎経済学部長「先ほど石川会長から四極会本部に女性部会を置いたという話があったが、この中心になって活躍しているのがかつての東京四極会の会員で、社会イノベーション学科にお迎えした渡邊博子先生だ。学部は四極会と一体となって母校の100周年を祝っていきたいので東京四極会の皆さんのご支援を是非とも賜りたい」

野々下100周年記念行事実行委員長「石川会長は100周年記念事業を絶対に成功させる、そのために会長を引き受けたといつも言われている。そのためにすぐに取り組んだのが四極会の組織・活動改革だ。本日、東京四極会の予算決算でも会費の減少が大きな課題になっているが、四極会全体でも同様で、毎年の運営資金が400万円ほど不足する傾向が続き、100周年は祝賀もできないと石川会長は当初考えたと思う。したがって、去年の評議委員会で、本部支部のあり方を検討する委員会と100周年の準備委員会を同時に立ち上げることを承認いただき今日に至っている。本日の東京四極会総会で女性役員を入れた新体制の考え方を聞いて、これまでの四極会全体の動きが反映されていると感銘を受けた。本部でも女性対応の改革を始めている。現在、四極会会員数は12000名でそのうち3800名が、また、毎年の卒業生300名のうち4割の120名が女性会員という現状だ。この状況への対応として女性部会がスタートしている。100周年記念事業実行委員会は募金委員会、事業委員会、広報委員会、式典委員会4つの組織で構成されており、これらを大学と四極会の共同で運営を行っている。それぞれの委員会の計画は今年7月7日の全国の評議会で正式決定して動いていくことになる。諸活動を下支えしていただける全国支部長会議の議長は東京四極会の理事長が担当することになっており、奥川新理事長の積極的なご支援を期待している。早速6月5日の支部長会議でこれをお願いすることになっている。最後に募金のことをお話ししたい。募金目標総額は1億3千万円。会員全員で12000名、一人当たり1万円、1億円は必達するということは決定事項になっている。中核としての東京四極会のご支援をお願いしたい」

平成29年度　東京四極会活動報告

平成29年			
4月	17日	第25回「東京四極会杯」ゴルフコンペ（御殿場 冨士CC）	雨天中止
5月	1日	「東京四極だより」71号発刊（会報通算132号）	
5月	16日	監事による監査（会場:ニュートーキョー田町店）	
5月	19日	東京四極囲碁会（会場:新宿囲碁センター）	参加7名
6月	3日	平成29年理事会開催（新日鐵・代々木倶楽部） *H28年度活動報告・決算案並びにH29年度予算案審議について	出席理事16名
6月	6日	平成29年定時総会開催（新日鐵・代々木倶楽部）	参加者48名
7月	11日	第23回四極会理事会 & 第9回評議員会・支部長会議 （会場:ステーションホテル小倉）	
8月	7日	若手会員の集い（会場:ニュートーキョー田町店）	参加者16名
8月	21日	東京四極囲碁会（会場:新宿囲碁センター）	参加者9名
9月	19日	第24回四極会理事会（会場:大分センチュリーホテル） 学部と四極会の意見交換会（会場:大分センチュリーホテル）	
9月	25日	第25回「東京四極会杯」ゴルフコンペ（千葉 習志野CC）	参加者11名
11月	1日	「東京四極だより」72号発刊（会報通算133号）	
11月	22日	第73回「たまには歩こう会」（紅葉の鳥居観音）	参加者15名
11月	27日	東京四極囲碁会（会場:新宿囲碁センター）	参加者10名
12月	8日	支部の組織運営等の状況及び本部に対する要望についての会議	参加者11名
平成30年			
2月	3日	東京四極会新年会開催（新日鐵・代々木倶楽部）	参加者47名
2月	13日	四極会と大学との意見交換会（会場:レンブラントホテル大分）	
3月	1日	東京四極囲碁会（会場:新宿囲碁センター）	参加者12名
3月	23日	第25回四極会理事会（会場:大分センチュリーホテル）	

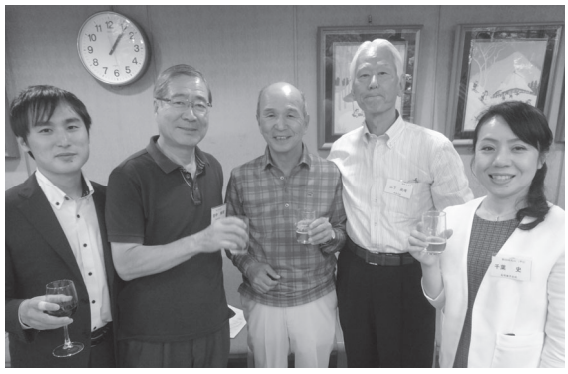
平成29年度収支決算 & 平成30年度収支予算

<平成30年3月31日>　（単位:円）

区分	費　目	29予算	29決算	決算差額	30予算
収入の部	(1)経常収入（年度会費）	1,008,000	936,000	△72,000	1,008,000
	<会費納入者数>	<210名>	<195名>		<210名>
	(2)事業収入（総会会費他）	760,000	649,000	△111,000	700,000
	(3)その他（受取利息）	110	43	△67	50
	収入合計	1,768,110	1,585,043	△183,067	1,708,050
支出の部	(1)事業活動費（総会費他）	1,238,000	1,226,716	△11,284	1,231,000
	(2)本部関係（支部分担金）	300,000	300,000	0	300,000
	(3)運営費（人件費他）	228,000	184,657	△43,343	176,000
	支出合計	1,766,000	1,711,373	△54,627	1,707,000
剰余金	差引本年度　剰余金	2,110	△126,330	△128,440	1,050
	前年度　繰越金	931,989	931,989	0	805,659
	期末未処分剰余金	934,099	805,659	△128,440	806,709

◎平成29年度末　財産目録（単位:円）
- ◇一般会計合計残高　805,659
- ◇募金会計残高　7,168,873
- 合計　7,974,532

◎監査報告
監事　田中 典明
監事　松岡 幸秀



※この写真を含め懇親会のカラー写真が東京四極会ホームページに掲載されています。

若手会員の集いを開催

大勢の若手中堅会員が集い交流を実施！

8月6日（月）本年度の「若手会員の集い」を開催した。場所はいつものニュートーキョー第一田町ビル店。今回は横山さんを中心に若手会員による招集が功を奏し例年になく大勢の会員が集まった。

「通常、関東地区で広域に数多くの企業に属している若手中堅会員の動静把握は非常に難しく、この中で草の根ベースで親睦の輪を広げるためには若手会員の中からの掛け声は本当にありがたい。」（奥川理事長）

今回、交換留学生として来日し卒業後は関東地区の企業で働く外国人会員、若手ながらすでに企業化を済ませて経営の代表者として頑張る会員、これから中国、ドイツに羽ばたこうとしている会員、そして既存企業の中で自分の立ち位置からの成長を実現しようとしている会員とこれまでの若手の会では触れることがなかった会員の実情と、これを乗り越えようとする強い意志を読み取ることができた。ダイバーシティ（人材の多様性）という世の中の流れに若手会員の皆さんが果敢に挑戦する姿は清々しいものがあった。東京四極会の新たな支援活動の方向性を意識できた会合となった。来年の本会の盛会を期待したい。

なお、これまで四極会の諸活動に地道に参加、協力をいただいた中堅会員の内田孝一さんがこの会を最後に、住居を福岡市に移すことになった。お礼とともに福岡でのご活躍を祈念したい。

――――

■出席者（敬称略）

若手会員：18名

加来公広（第61回大34）、内田公一（同）、早川恵弘（第67回大40）、丸尾克広（第72回大45）、島崎宏道（第74回大47）、黒木昭博（第81回大54）、伊藤祐基（第83回大56）、Michael Navarro（第85回大58）、Perry Brown（同）、永田悠介（同）、小田秀樹（第86回大59）、横山祐真（同）、佐々木準（同）、雷蕾（第87回大60）、清水優太朗（同）、松村祥史（第89回大62）、宮本晃成（第92回大65）、佐藤幸太（翔工会・平成23年卒）

執行部：13名

奥川隆生（理事長・第50回大23）、鶴田幾雄（事務局長・同）、大坪孝幸（副理事長・第55回大28）、下村晃（事務局次長・第49回大22）、米井晃彦（事務局次長・第54回大27）、石川公博（理事・第53回大26）、西坂憲郁（理事・第56回大29）、金馬弘明（理事・第57回大30）、梅木俊宏（理事・第58回大31）、田尻清司（理事・第59回大32）、小林伸彦（理事・第60回大33）、西川広子（理事・同）千葉史（理事・第68回大41）

■全国支部長　顧問・参与会議（2018年6月5日）

全国支部長会議では東京四極会の奥川が互選で議長になり議事を進行しました。メイン議題は「100周年記念行事」に向けた諸準備の確認です。準備を遂行するのは、「記念式典」、「記念事業」、「記念募金推進」、「広報」の4つの小委員会です。

100周年は大きな歴史のくくりです。会議の議員の皆さんのご意見からも、100周年記念事業をこれまでの周年式典以上に意義あるものにしていきたい、是非とも成功させたいとする熱意がよく伝わってきます。一方でこれを支える財政として本年7月から総額1.3億円の募金活動が始まりました。大きな目標額です。これは2022年3月末までの期間にわたって展開されます。この目標額をみて、これを受け持つある支部からは、実力以上に高い目標で困惑するという意見も承りました。

各地の支部、東京四極会においても同様ですが、地道な組織活動を通じてこのギャップをできるだけ小さくして、多くの会員の皆さんに応援していただける募金活動、ひいては同窓会活動につなげていく必要があります。記念式典などの事業や募金活動については四極だよりやHPを通じて十分に説明を尽くしてまいります。また、ご意見も是非ともいただきながら取り進めていきます。

■四極会女性部会「桃優会」に千葉理事を派遣（2018年8月22日）

近年、毎年の卒業生の約4割は女性が占めるようになっており、四極会活動もダイバーシティ（多様な人材の活用）の流れを積極的にかつ肩肘を張らずに先導、応援していくことが活動の永続性にとって大変重要になっています。

「桃優会」は女性による女性のための部会として本年2月に四極会本部が設立しました。8月22日、第2回の例会が開かれ、東京四極会からは千葉史理事を派遣しました。当日は県内を中心に多くの女性会員が集まり、ミニセミナー「すぐに実践できる楽しいマナー講座」と親睦会を通じて、千葉理事も参加者同士の親睦と有益な意見交換ができました。

東京四極会もここで得たアイディアも活用して、男女を問わず若手や外国人の卒業生がより参加しやすい仕組みを考えていく予定です。

【理事長の活動メモ】

四極会本部との連携活動について

東京四極会は毎年卒業生を全国に送り出す、地元大分の「一般財団法人四極会」の支部でもあります。

東京四極会はこれまでも、本部が主催する理事会、全国支部長会議、評議委員会などの諸会議に参加し、連携活動を進めてきました。

これからも東京四極だよりや東京四極会のHPを通じて四極会本部との連携活動について報告をしていきます。会員みなさまのご意見もいただければ幸いです。

謹んでお悔やみ申し上げます（敬称略）

首藤　照雄（第46回・大19）平成29年12月9日
二階堂　釐（第33回・大6）平成30年1月14日
天川　易行（第35回・大8）平成30年1月15日